



▲最新マシンを取り揃えた「レクロス広尾」

日赤のデイケア 最新マシンで個別リハ

今年の4月に開設した日本赤十字社総合福祉センター内のデイケア「レクロス広尾」は、生活リハも取り入れた新しいデイケアを目指している。定員40名で168・34

平米の広い空間に、最新マシンを取り揃えた。筋力トレーニングの効果を最大限に引き出すため、マシントレーニングによる

家族からもリハビリを長時間できることで喜ばれているという。要介護5の人でも、回復するケースがあるため、話を聞いた上で、要介護度が高くても受け入れる。

「基礎体力を維持するには、バランス、筋力、柔軟性が重要です。これらの力を効率的に鍛えられるようにプログラムを組んでいます」

(秋元美穂係長) 同施設の利用者は、リハビリをしっかりと行いたいという人が多い。60分から90分かけて運動しながら一日中、トレーニングを行うことが可能

だ。また、マシンによるリハビリだけでなく、革細工のコースターを製作するなどの生活リハも取り入れている。作品を作るだけでなく、今後使えるものを作るようにしてい

る。施設の開設準備に注力してきた秋元係長は力してきた秋元係長は力ナダのシニアセンターでボランティアを行った経験がある。シニアセンターとは、カルチャーセンターのような場所で、カナダの高齢者がヨガやフットマッサージなど様々なプログラムを楽しむ施設だという。このような経験から秋元氏は高齢者の社会活動の参加も重要だと考えている。デイケアの利用者がここで社会活動を楽しめるよう、インド人のボランティア団体の呼んで、ヨガ教室を開催したり、イベントも開催していく考えだ。

「今後は半年で、利用者数を150人から180人に増やすことを目指します。ニーズの高い土曜や日曜の稼働も検討しています。当施設のある渋谷区にはデイケアが少ないため、地域の人のリハビリに未永く貢献していきたいと考えています」